



「心に寄り添う新しい認知症ケア」
～モンテッソーリケア～

一般社団法人日本モンテッソーリケア協会 代表理事
株式会社センチュリー代表取締役
大阪大学大学院 工学研究科 地球総合工学専攻 建築工学コース
建築都市計画論領域 特任准教授
大阪大学社会ソリューションイニシアティブ 招聘教員
杉田美和 博士(工学) / MBA

OSAKA UNIVERSITY
SOCIAL SOLUTION INITIATIVE (SSI)

1

一般社団法人 日本モンテッソーリケア協会

代表理事 杉田美和 (大阪大学 工学研究科 特任准教授)

理事 木多道宏 (大阪大学 工学研究科 教授)

理事 佐藤眞一 (大阪大学 名誉教授)

理事 山川みやえ (大阪大学 医学系研究科准教授)

理事 山本直幸 (協会事務長)

OSAKA UNIVERSITY
SOCIAL SOLUTION INITIATIVE (SSI)

2021 春

豊中市柴原に
「ホスピス」と「サービス付き
高齢者向け住宅」が
OPEN

豊中市柴原に
「ホスピス」と「サービス付き高齢者向け住宅」を
併設した「とみきたの社」が誕生しました。
十津川郷の木材を多用した和モダンの2つの建物。
床暖房完備、ダイキン「うるるとさらら」も標準装備。断熱材にもウッドファイバーを使用。
やさらぎの毎日をご過ごす「場」がそこにあります。
モンテッソーリケアで暮らす毎日は、豊かで優しい日々となるでしょう。

もがの家
永年に柴原に存し平屋の一軒家を大々的に
リノベーションし、木のぬくもりが
溢るホスピスに生まれ変わりました。
自宅で豊かな時間を過ごすように、
自分らしい生活を「ホスピス もがの家」
でお過ごしください。

モンテッソーリケアとは
モンテッソーリケアはイタリアの医学博士であるマリア・モンテッソーリの教育法を基盤とした教育実践です。日本でも
本邦に誇り「子供の主体性や個性を尊重する幼児教育」
として認知され、最近あちこちで注目が高まっています。
またモンテッソーリ教育は認知症高齢者の生活を支える人
材にも求められ、モンテッソーリケアです。
で学ぶことは認知症でも、自分らしい生活を送ることに
役目を果たす。やがて高齢者の健康を大いにし、寄り添っ
ていく未来の鍵のあり方です。

〒561
#モガの家
大阪府豊中市柴原1-11-13
TEL: 06-6852-6000
E-mail: info@mocajappai.com

とみきたの社

大阪府豊中市柴原1-11-13
TEL: 06-6852-6000
E-mail: info@mocajappai.com

2

研究・実践の場



大阪府豊中市柴原町
伊丹空港からモノレール2駅の柴原阪大前駅より徒歩8分
 市立豊中病院・阪大豊中キャンパスから車で5分の場所にあります。



開所式にて(木多教授 [左]・堂目教授 [中央]・佐藤教授 [右])

3

実践の場

サービス付き高齢者向け住宅『柴原モカメゾン』と看護ホスピス『もかの家』を建築し、2021年4月より開所。
 命を「まもる」、「はぐくむ」、「つなぐ」というSSIの理念を追求する本基幹プロジェクトの実践の一つとして、まち並みと社会の両面から地域にとっての大切な場所となることを目指している。

サービス付き高齢者向け住宅(サ高住) 「柴原モカメゾン」:

- ・新築
- ・介護度が要支援/要介護の方が入れる施設
(基本は食事提供と安否確認・生活相談サービスなので経営の自由が利き易い)

暮らす看護ホスピス「もかの家」:

- ・リフォーム
- ・緩和ケアのための家で、利用者・家族様に終末期ケアを行う。
訪問看護と往診で、もかの家は癌末期・難病の方が家族と自由に暮らして頂く。



4

1. まちづくりの観点から

・周辺地域には旧内田村のため池や水路が残されているため、大きな開発がなく、人間的なスケールの街並みとなっている。もかの家・柴原モカメゾンも、地域の「一部」になるよう、平家と2階建てにしている。

・豊中亀岡線には古くから商店が立ち並び、前面の交差点は地域の人々が行き交う結節点であったが、近年はコインパーキングが増えて活気が失われている。

交差点にモカメゾンの格子のファサードを出すことで、景観の壁面線の小さな再構築を図っている。



2. 家づくりの観点から

・監修は工学研究科 木多道宏教授(一級建築士)

・まちづくりの一環として地域に貢献する拠点→外観・内装・設備のこだわり

・世界中の方を対象→和モダン

・人に優しい

→木にこだわった木造

木材は十津川村から

断熱材までウッドファイバー

エレベーターの内装も木目

元々の軸組を極力残しながらも、耐震や防火性能に万全の対策

→床はダブルクッションシート(畳の柔らかさを実現)と床暖房

→湿度管理が出来る冷暖房

・決断の要の家族が自分達が住みたいと思える事で罪悪感の解消



研究の場

柏木哲夫先生懇談会

山川プロジェクト主催でホスピスの第一人者の柏木哲夫先生ご夫妻をお招きして座談会を実施しました。

7



7

2025年5月17・18日
開催！

@大阪大学 保健学科

来年は8月の予定！



2025 モンテッソーリ認知症ケアリーカー養成コース (2日間)

イタリアのマリア・モンテッソーリ博士は、子どもを観察することから人間の発達の違いを発見し、子どもの発達に寄り添ってきました。このコースではモンテッソーリ教育法を応用して、高齢者や認知症の方の自律を目指した「尊厳のケア」を学びます。医療や介護の現場で働いている方、地域や家庭で介護に関わる方、またご自分の周囲の方の豊かな将来のために役立てていただくことができる内容です。

2025 5月

心を通う本当の介護とは？
認知症の方の尊厳を大切に
自律に寄り添う介護を学ぶ

AMJ

しあわせを呼ぶ認知症
モンテッソーリケア

2025 5/17・18 (土・日)
9:30~18:30

講師: アンケリー (Anne Kelly) オーストラリア在住

会場: 大阪大学 医学部保健学科 講義棟1階第2講義室 (大阪大学 府南キャンパス) 大阪府東淀川区山崎1-7-7

対象: 医療・介護・福祉関係の従事者、モンテッソーリアプローチに関心のある方、子育てに関心のある方

受講料: 本: 40,000円(1日) 他: 35,000円(1日) (AMJ 会の会費は別途) (C: 50,000円/2日間)

資格取得料: 2025年度 AMJ 認定モンテッソーリアプローチ指導者養成プログラム修了後、AMJ 認定モンテッソーリアプローチ指導者として活動することができます。 (C: 50,000円/2日間)

お申し込み: <https://www.montessoricarejapan.com/ami-certification2025>

主催: 一般社団法人 日本モンテッソーリアソシエーション 一般社団法人 AMJ 会の会 NIPPON 大阪大学 社会ソリューションズ 科学とのアートによって構成される、一人ひとりの自律に基づいた生活に寄り添うための組織体

後援: 大阪大学 社会ソリューションズ(学内) (SS)

お問い合わせ: 一般社団法人 日本モンテッソーリアソシエーション 大阪府豊中市桑原町3-11-14 Tel: 06-6348-5630 Mail: info@mcjapan.com

8

大阪大学・NEC Beyond5G 協働研究@柴原モカメゾン
「Beyond5G時代における未来の介護の提案」

2023.2 新聞発表

第1層：物理的空間の情報
第2層：心理的空間の情報
第3層：「役割」の情報

豊かな心の世界

第3層：立場をこえた関係の理解
第2層：「心の状態」と「場の空気感」との関係の理解
第1層：人と生活環境との関係の理解

環境変化と居心地のよさとの関係を探る
場の形成との関係を探る
他者への思いやりと「学び」や「気づき」を与え合う関係を探る

お互いを思いやる行動の記録
人の会話・表情などの記録
物理的空間のリアルタイムセンシング

OSAKA UNIVERSITY SOCIAL SOLUTION INITIATIVE (SSI) デジタル リアル

9

『NEC wisdom』

2024.2

トピック、テーマ、ネットワーク・5G、心とICTで認知症の方の笑顔を増やす！～「豊かな心の世界」を目指す大阪大学とNECの挑戦～

ネットワーク・5G

心とICTで認知症の方の笑顔を増やす！～「豊かな心の世界」を目指す大阪大学とNECの挑戦～

OSAKA UNIVERSITY SOCIAL SOLUTION INITIATIVE (SSI)

10

もしも認知症になったら

～しあわせを呼ぶ認知症～



2040年、高齢者の3人に1人が認知症になる時代
もし、あなた自身や大切な人が認知症になったらどうしますか？
認知症の方の心に触れていただく体験を通じて、認知症ケアの未来像を
「いのち輝く未来の木」に託してみませんか？

OSAKA UNIVERSITY
SOCIAL SOCIETY

この大阪・関西万博から世界に向けていのち輝く未来を発信しましょう！

15

15

2025年7月8日(火)～7月14日(月)



- 1. 認知症を知る**
もしもが
認知症になったら？
- 2. 介護を感じる**
いまの認知症ケアを
体験・体感する
- 3. 未来を創る**
あなたの考える理想的な
認知症ケアとは？

「理想的な未来の認知症介護の姿」をみんなで創り上げ
フューチャーライフエクスペリエンスから世界へ発信する

OSAKA UNIVERSITY
SOCIAL SOCIETY

大阪大学・NEC Beyond5G 協働研究所・日本モンテッソーリアケア協会 共同体

16

モンテッソーリケア

～自分らしく生きる人生に寄り添う明るい未来の介護を～



モンテッソーリ教育はイタリアの医学博士であるマリア・モンテッソーリの考案した教育理論です。日本でも永年に渡り「子供の主体性や尊厳を尊重する幼児教育」として認知され、最近も改めて注目度が高まっています。そのモンテッソーリ教育を高齢者や認知症介護に取り入れたものが、「モンテッソーリケア」です。

一人ひとりが可能な限り自律し、コミュニティの中に自分の存在意義を見つけ、自己肯定感を持ち、自分で選択する機会を得て、自分らしい生き生きとした毎日を過ごす。そんな高齢者の尊厳を大切に、寄り添っていく未来の介護のあり方です。

17

モンテッソーリケアの特徴

好きな時にできる
「アクティビティ」



コミュニティの中での(施設、家庭など)
「係(かかり)」
例) 植木の水やり
新聞を配る等

アク
ティビ
ティ

役割

サイン

蛇口の下に
手をかざしてください
自動で水が出ます



場所や物の名称、やり方
などを書いた標識

18

何を楽しみで一日を迎えるか(活動・アクティビティ)

その人の長所、人生史を融和した活動を準備し、**残存機能の維持だけでなく、精神的に満足することが、認知症の周辺症状を減らす。**

一日の流れの中で、食事や入浴、排泄、更衣、衣類をたたむ、ボタンを掛ける、注ぐ、紐を結ぶ、歌を唄うなどの**日常動作のすべてが活動**となり得る。

見守りの元、安全を確保した上でできるだけご自身でしていただけるよう、スタッフはサポートする。



19

何を楽しみで一日を迎えるか(役割)

人に一方的にサポートしてもらうよりも、自分自身も誰かのために何かしてあげたい、という気持ちを尊重し、社会の中で、**貢献できる役割**を持っていただく。**一人一人に決まった役割があることで、責任感を持ったり、他人の役に立っているという自信になり、人から感謝され、自己肯定感や達成感**を得ることができる。人によっては、昔から行ってきた仕事に関連する能力であったり、家事であったり、他人のお世話なども含まれる。



20

モンテッソーリケアの具体的事例

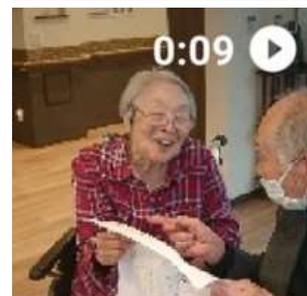
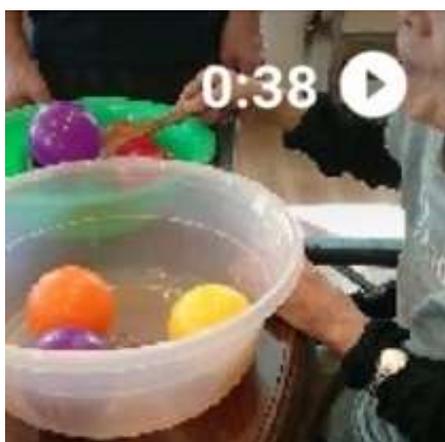
Would you help me ?

「手伝っていただけませんか？」→自主的に役割→自律



21

ボールすくい



22

自分で選択し好きな時にできる様々なアクティビティの提供

各々が自分の選んだ
違うアクティビティを
楽しんでいます。



このツリーは認知症の方が、
ニコニコ😊しながらいつのま
にかクリスマスツリーをデッサ
ンされ、そこに別の認知症の
方が自主的に色を塗られまし
た。感動。



昨年の七夕の短冊
に「この幸せがずっ
と続きますよう
に…」を見て、ケア
ワーカーさんもほろ
りとなりました。



モンテッソーリケアに大切な環境「サイン」をつける

場所や物の名称、やり方などを書いた標識で、
記憶障害の症状のある方がそういったことを思い出す助けになる。
黄色の背景に黒字で文字を書くことで、コントラストがはっきりして見やすい。

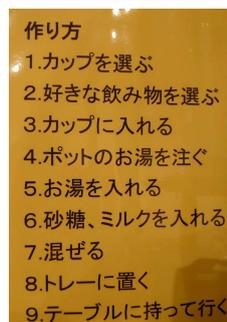
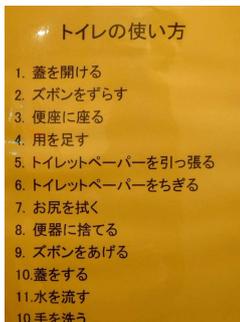
- ・高齢者は字が読める
- ・読めば出来る
- ・経験がある
- ・自分で選択する



Copyright ©Masami Aki

25

分かりやすいサイン

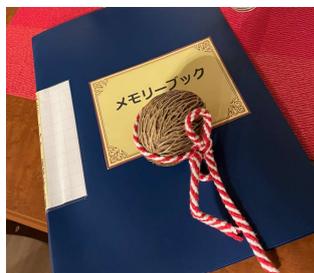


26

キューカード・記録ノート・メモリーブックの活用

入浴は、火曜と木曜
です。

8:00 朝食を食べました。
9:15 トイレにいきました。
10:00 体操しました。
12:00 お昼御飯を食べまし
た。
15:00 シュークリームを食べ
ました。
16:30 お風呂に入りました。



OSAKA UNIVERSITY
SOCIAL SOLUTION INITIATIVE (SSI)

27

メモリーブック ①

認知症と共に生きる方は、記憶が断片的になることから、過去から今につながる「自分らしさ」という感覚が失われやすい傾向にある。モンテッソーリケアでは、その方が歩んできた人生を大切にしている。

希望される方に、回想法の分類の一つである「メモリーブック」を作成し、ご自身の思い出話をしていただき、その方の過去を思い出すサポートを行う。

それにより、**幸せだった人生を味わい、自己肯定**できる。

28

メモリーブック②

「メモリーブック」は、コミュニケーションツールとしての機能をより強化し、過去の回想だけではなく、現在、未来へと繋がっている自分をイメージできるように、ご本人から時系列で聴取した自伝的記憶と現在の生活を、写真やイラストを組み合わせることでアルバムにしたもの。

新しく入ったケアスタッフにとっては、今のその方を知るための良い機会になる。

29

モンテッソーリの理念を取り入れた実践方法

Error-Free (エラーフリー)

失敗してしまう活動には原因がある。難易度の調整を行い、成功体験を積むことができるように努める。

間違っただとしても、正すことはせず見守る。

Link (リンク)

一人ひとりの生活習慣に合わせて、起床や食事の時間は決められておらず、好きな時間に起き、好きな時間に朝食を取っていただく。おかずはバイキング方式で、自分達でパンを焼いて頂いている。

30

日常におけるモンテッソーリライフ

結びつきがもたらす安心感や愛着やこだわり、その方の**価値観を尊重**する為に、ご入居される居室は、これまで**ご本人が慣れ親しんでこられた環境**にできるだけ近付ける事が好ましい。

大切にされてきた**身近な物**（布団・家具等）やお写真などを、自室に飾っていただくことをお薦めしている。

31

モンテッソーリライフ①

アクティビティ棚



OSAKA UNIVERSITY
SOCIAL SOLUTION INITIATIVE (SSI)

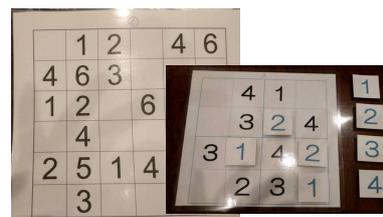
ドリンクコーナー
「自由に飲み物をお飲みください。」



廊下もアクティビティ
「出身はどちらですか？」



様々なアクティビティを作成します



32

自分らしく自律した自主的なモンテッソーリライフ②



お世話をさせていただきます



かたづけは協力して。



食器洗いは各自で

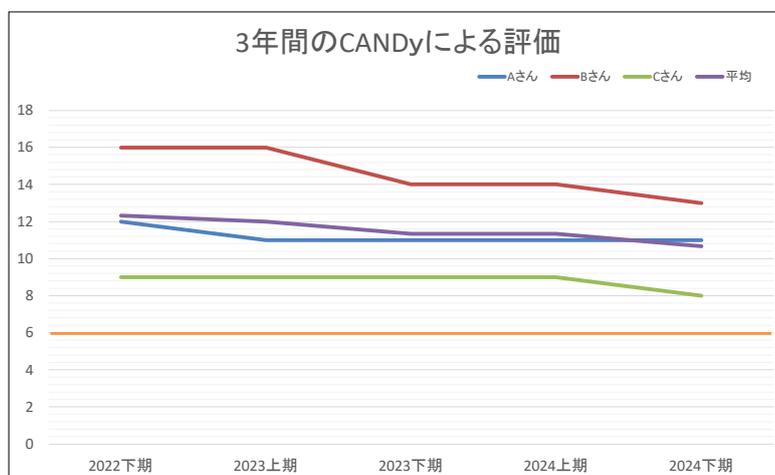
日常会話式認知機能評価 CANDY Conversational Assessment of Neurocognitive Dysfunction

表 CANDYの各項目が反映する神経認知領域

項目	神経認知領域	該当	
		N	%
会話中に同じことを繰り返し質問してくる	記憶障害	22	95.7
話している相手に対する理解が曖昧である	人物誤認	19	82.6
どのような話をしても関心を示さない	興味・関心の喪失	21	91.3
会話の内容に広がりが無い	思考の生産性や柔軟性の障害	22	100
質問をしても答えられず、ごまかしたり、はぐらかしたりする	取り繕い	21	91.3
話が続かない	会話に対する注意持続力の障害	22	95.7
話を早く終わらせたいような印象を受ける	会話に対する意欲の低下	18	78.3
会話の内容が漠然としていて具体性がない	喚語困難	18	78.3
平易な言葉に言い換えて話さないと伝わらないことがある	単語の理解の障害	21	91.3
話がまわりくどい	論理的思考の障害	18	78.3
最近の時事ニュースの話題を理解していない	社会的出来事の記憶の障害	18	78.3
今の時間（時刻）や日付、季節などがわかっていない	見当識障害	20	87.0
先の予定がわからない	展望記憶／予定記憶の障害	23	100
会話量に比べて情報量が少ない	語彙力の低下	18	78.3
話がどんどんそれて、違う話になってしまう	論理的思考の障害	19	82.6

※大庭輝・佐藤真一・数井裕光ほか（2017）日常会話式認知機能評価（Conversational Assessment of Neurocognitive Dysfunction; CANDY）の開発と信頼性・妥当性の検討. 老年精神医学雑誌, 28:379-388 を一部改変して引用。

日常会話式認知機能評価 CANDy Conversational Assessment of Neurocognitive Dysfunction



CANDyは認知症の人に見られる15個の会話の特徴について、自由な会話の中でその出現頻度を評価し、30点満点の検査で、6点以上を認知症の疑いありと高い精度で判定できる。

3年以上のモンテッソーリケアの実践により、周辺症状を含む認知機能の改善が見られた。

スタッフと入居者様が幸せに過ごせる経営について

- ・モンテッソーリケアメソッドをスタッフにも取り入れて、得意な事に役割を持ち、長所を生かし、モンテッソーリライフを全員がおくる。
- ・経営者がスタッフに寄り添う事で、自然にスタッフが入居者様に寄り添える。
(株主を見るのではなく、スタッフを大切にする。結果利益や付加価値が上がる。)
- ・訪問介護に余裕を持ち、スタッフ達で今日のスケジュールを選択し、運営する。途中、変更も可能にしてる為、無理な介護をする等のスタッフにも入居者様にも負担が無い。
- ・スタッフが入居者様に感謝ができ、心が通う暖かい業界である。

Aさん(85才 認知症 要介護2)：自宅では全く料理も出来なかった。入居されてから1週間は「帰る帰る」とドアを叩き、徘徊されていたが、今は毎日、調理のお手伝いの役割を一生懸命にされている。

買い物にお誘いしても、「私、行かないわ。ここで留守番してる。毎日楽しいもん！」とのこと。「私は幸せよー！一緒に住もう」と、弟さんを誘われている。



Bさん(85才 認知症 要介護4)：入居当時はご飯も自分で食べられず、歩けず、不穏状態の時間が長かったが、スタッフが「ボールすくい」のアクティビティを作り、実践していただくと、自分で食べられる様になり、手引きをすれば歩ける様にもなった。また、看護師が膀胱炎を疑い、改善することにより、不穏状態がほとんど無くなった。



Cさん(85才 認知症 要介護1)：娘さんたちが大阪にお住まいでお母様が地方からお越しになられた。最初は「家が心配だから帰る帰る」とおっしゃってたが、「三度三度おいしいお食事を頂き、バチがあたるわ。幸せやねー。これからもよろしくお願いします。」

家族様からは「健康で生き生きしててあまりの良方への変身にただ驚くばかり！これも全て皆様のおかげだと思っております。感謝の気持ちでいっぱいです。」



37

Dさん(89才 認知なし 要支援1)：絵の先生で、お庭の借景(→)と、「自由な生活スタイルを尊重してくれるので」と気に入って頂けた。娘婿さんは緩和ケア医。

家族様からは「母があんなに手放せなかった家を手放してモカメゾンに行くことを考えてくれるとは本当に奇跡です！長年自立して生活していたので、自分のペースをすぐには変えられないと思いますので、いろいろとご迷惑おかけすると思いますが、よろしくお願い致します。」



Eさん(91才 認知症 要介護4)：前施設では、おむつを外してしまうとのことだったが、看護師がお尻の肌荒れと褥瘡(じよくそう)を防いだ事で、全くその様な行為はない。

食事もガツガツ食べ過ぎていたが、少しずつ前のお皿に乗せてあげると、味わってゆっくり食べる様になった。きょとんとした表情から、意識のある表情になり、お話を始めた。

家族の顔を忘れていたが、モンテッソーリケアで写真入りの家系図を反復していたら、娘さんが認識できた！娘は薬剤師。娘婿は内科医。

家族様から「本当に本当に感謝してます！日々元気になっていくのに、びっくりしてます！」

38

Fさん(84才 認知なし 要介護4) : 歩けず、排尿、排便が認識出来なかった方が、自分で歩いてトイレに行ける様になった。家族様からは「**父の命を救って下さり**、本当にありがとうございました！**ルルドの泉**ですね。**感謝**しかありません！」 近々自宅に戻られる予定。

Gさん(89才 認知症 要介護1) : 物とられ妄想があったが、落ち着いた。
「私、好き嫌い多いし、口が悪い私けど、**死ぬまで、ほんまよろしく**お願いします。」
ケアマネさんから「こんな**穏やかな表情**のGさんは初めて見ました。」

Hさん(82才 認知症 要介護2) : モカメゾンに来られるまで、暴言や、妄想が激しかったが、役割(コーラス部長)を持ち、色んな人と関わる様になり、穏やかになられた。
家族様からは「本当に**救われました**。ありがとうございます。」



OSAKA U
SOCIAL S

39

Iさん(91才 肺がん) : 娘さんが近くにお住まいで、会社の前後に見舞い来られた。スタッフと一緒に夕食をとられる事もあり、娘さんの仕事の話も伺う様なとても友好的な関係。Iさんは、料理長のご飯は美味しいと完食されることもあったが、どんどん食べられなくなってきた時「**やわらかいパン**が食べたい。」とおっしゃった。どんなパンがいいのか思案していたら、娘さんが「父が私の家に居た時に、主人がパンを焼いてました！」とおっしゃったので、「そのパンを今から帰って焼いて来て！明朝、出勤前に持って来て！」とお願いした。翌朝、Iさんはそのパンを1/4切れとヨーグルト少し。また翌朝もそのパンを1/4切れとヨーグルト少し。これが**最後の食事**になった。

息が止まり、アルバイトの学生が呼びに来た。まだ、心臓は動いていたので、**最後まで「ありがとう！」と伝えた**。そして脈拍も無くなった。

今度は娘婿様がパンを焼いて一枚一枚ラップをして、葬儀の柩の中に、並べた。

家族様からは「**ミラクル★サ高住モカメゾン**です！ここに来られただけで悔いはありません！私も住みたいです。」



OSAKA UNIVERSITY
SOCIAL SOLUTION INITIATIVE (SSI)

40

Jさん(57才 肺がん) : 日本中から理想の終の棲家を探して、名古屋から友人に同伴され命からがら到着された。両親は他界、一人っ子で結婚していない。
 「今まで、早く死にたいと思ってたけど、ここに来て、**生きたいと思った。生きたい。。**」
 「『ライオンのおやつ』の中に出てくる『**ライオンの家**』が本当にありました！」
 料理長に「何が食べたいですか？」と聞かれて、何十年かぶりに聞いてもらって**涙が出た**。
 以前、当施設が「緩和ケアの本流」の取材を受けた時のYou Tube動画を見て下さっており、木多先生のファンになり、会えた時に**号泣**された。
 そしてお持ちになった写真と一緒に見て笑ったり、子供の頃、**初めて話した言葉が「りんご」**だった話や、趣味の飛行機の話で盛り上がった。
 どんどん元気が無くなり、ご飯も食べられなくなり、「何が食べたいですか？」と伺うと、**「りんご」、「リンゴジュース」と**言われた。
 最後の言葉だった。最初と最後が同じ言葉。。

心臓が止まり、そして、「はっ。。はっ。」
 と、息が止まった。
 皆で**感謝をずっと伝え続けた**。



41

奇跡が起こっているのには、原因があり、スタッフの思いや、モンテッソーリケを取り入れた**モンテッソーリライフ**がある。

モンテッソーリケアの**相手の事を良く診る**(観察する)心には、**愛が必要**。

エラーフリーで、これからも精進していく。

命をまもるはぐくむつなぐの「つなぐ」について、
 亡くなられても、今、この様に、語りつがれている。

息が止まってから、心臓が止まってから、伝える言葉を
 伝えるべき人に、**いつもいつも伝えてください**。

愛する人に『大好きだよ。愛してる。』
感謝すべき人に『ありがとう。』 と。



42

自然分娩と自然死(ゆりかごから墓場まで)

自然死は病気などの原因ではなく、年を取って自然に老衰で死亡すること

重い病気で回復の見込みのない状態の人に、延命措置を継続することをやめて、緩和ケアで痛みは取って管は外し、自然に死を迎えさせてあげることを、日本では「**尊厳死**」と呼ぶ。

こうした**尊厳死を含む自然死**の考え方は、厳しい医療処置や苦しみの中で最期の時間を待つのではなく、積極的に**選択**することで、**枯れるように自然に死んでいきたい**とする人々の間で支持されるようになってきたが、医療技術が進み、多くの人が病院で亡くなる現状の中、自然死という選択は難しくなっているが、コロナ禍で面会出来ない環境ではなく、家やホスピスで自然死を望む人も増えている。

死因を老衰とすることも減り、心不全、肺炎、脳卒中のような病死扱いになるケースが一般的。

医師は病院にできる限りの手を尽くして延命治療を行うのが**仕事**でもあり、医療機関で治療を受けなければ、生命の維持が困難になる場合もあるので、自然死を選択する家族に敬意を払っている。

緩和ケアで痛みはとり、管は外し、看護師の経験で看護が進められる。
食事も取れなくなり、

43

44